

半導体漫遊記

155

湯之上隆

東芝は、昨年末発売した原子力事業の巨額損失によって債務超過に陥った。この危機を回避するために、NAND事業を「東芝メモリ」として分社化し売却することになった。

東芝メモリの買収額は2兆円と試算されている。2015年の東芝のNAND売上高は8166億円だった

が、買収額/売上高は2.45となる。東芝四日市工場の資産価値が、売上高の2.45年分というのは、安すぎ

ように感じる。そこで、最近の半導体メーカーの買収における買収額/売上高の値を調べてみた。

17年3月、インテリジェントデバイス事業は、このように事情が分かる。

一方、競合メーカーの1社、SK HynixのNAND売上高は、09年第1四半期を1と規格化すると、その後、売上高は増大し、16年第4四半期には6.37倍にまで成長している。

2兆円という評価を誰が行ったのかは知らないが、売る方の東芝としては、3次元NANDを製造できる企業は世界に4グループしかないこと、その3次元NANDはビッグデータ時代の必要不可欠な極めて重要な半導体であることを、もっと強調すべきである。私個人としては、売上高8166億円の10倍の8兆円ぐらいの買収額でも良いのではないかとと思う。どうせ売

るなら、もっとふんだんに売れ。(微細加工研究所・所長)

東芝メモリの買収金額2兆円

ちよっと安すぎないか？

3兆円で買収すると発表し、買収額/売上高は1.8・43となる。16年10月、クアルコム本格的なビッグデータ時代が到来している。回避しなくてはならな

7月、アナログデバイスが、売上高3.58億ドルのイスラエルMossが、売上高14.4億ドルのリニアテクノロジーを148億ドルで買収すると発表した。買収額/売上高は1.10となる。

次元NANDの需要が急拡大しているから買収額を低く抑えていると思われる。

第二は、東芝メモリのNANDの売上高が増えておらず、将来性が低いと評価されているからである。実際、10年第1四半期のN

と、東芝メモリの買収額/売上高は1.10となる。

まず第一に、東芝10年第1四半期のNANDの売上高を1と規格化すると、その後、売上高は増大し、16年第4四半期には6.37倍にまで成長している。

2兆円という評価を誰が行ったのかは知らないが、売る方の東芝としては、3次元NANDを製造できる企業は世界に4グループしかないこと、その3次元NANDはビッグデータ時代の必要不可欠な極めて重要な半導体であることを、もっと強調すべきである。私個人としては、売上高8166億円の10倍の8兆円ぐらいの買収額でも良いのではないかとと思う。どうせ売

るなら、もっとふんだんに売れ。(微細加工研究所・所長)

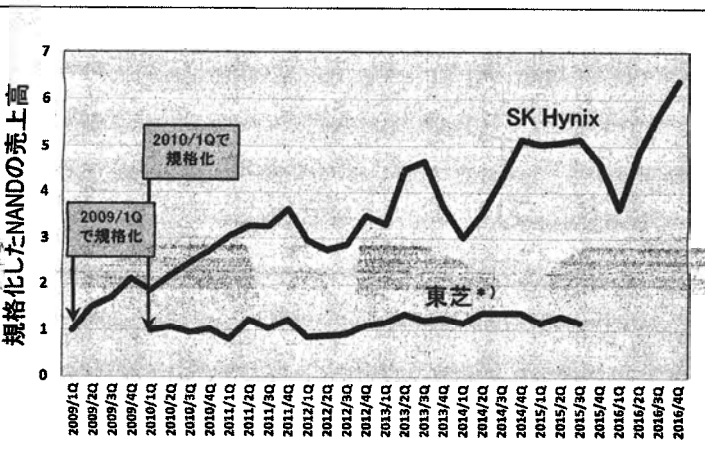


図1 東芝とSK Hynixの規格化したNAND売上高

* 東芝のすべての半導体売上高(ほとんどはNANDと推定)